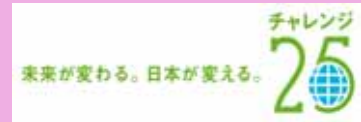




ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidasypher/kankyo/iso/index.html>

10.09.09

飯田市役所 EMS 相互内部監査が行われる

本年度の相互内部監査は、7月14日から8月30日にかけて71の部課等で実施。相互内部監査員37人、オブザーバ63人の皆さんに参加いただきました。相互内部監査員、オブザーバの多くは地域ぐるみ環境 ISO 研究会のメンバーです。飯田市役所の自己適合宣言は研究会に支えられています。

2003年1月23日、日本の自治体として初めて自己適合宣言に移行した飯田市にとって、相互内部監査は、システムの客観性、透明性を担保するために最も重要なしくみです。



最終日に行われた飯田市役所環境マネジメントシステム環境管理責任者及び事務局監査においては、「昨年度の内部監査以降、飯田市の環境マネジメントシステムは、著しい環境側面の特定のためのルールの明確化や、飯田市環境マニュアル適用組織図を作成して適用サイトの明確化を図るなど積極的なシステムの改善が図られている。しかし、システムのスパイラルアップの結果生じた法令等の調査の手順の見直しなど指摘事項もある。10年を経過した現在、システム構築時に中核であった構成員から世代交代が進んでいるので、システム改善とともに構成員のやる気を引

き出すシステムとなるよう一層活発な取り組みを期待する」(事務局監査員)

「自己適合宣言を維持していく上で特に相互内部監査員の受入が重要であり、昨年に比べ少人数であったことから来年度に向けて受入方法等の検討が必要である」(環境管理責任者監査員)

研究会の実務者も交代するため、研究会からの参加者も減少しているのが現状です。地域ぐるみ環境 ISO 研究会とともに実施する相互内部監査は全国的にも高く評価されています。自己適合宣言の実を高めるためにも、来年度は今年以上の積極的な参加をお願いします。

メガソーラーいいた建設工事始まる

飯田市と中部電力(株)が共同で川路城山地区に建設する「メガソーラーいいた」の発電所工事が始まりました。環境モデル都市として温室効果ガス削減を目指すシンボルとして、より一層太陽光発電をPRしていきます。

発電所工事において、土木工事は吉川建設(株)が、電気工事は三菱電機(株)が担当し、工事の施主である中部電力(株)とともに「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」に属する企業による地域ぐるみの取り組みとして持続可能な地域づくりへの弾みとなるものと期待されます。



出力は1000キロワットで、稼働によりCO2の排出量を年間400ト削減できる見込みです。工事の完成は来年2月を予定しています。

地球温暖化防止 一斉行動週間始まる

年3回実施している一斉行動の取り組みですが、例年ですと10月に行われる「生活と環境まつり」にあわせて実施しておりましたが、今回は実施時期を少し早めて、9月6日(月)から12日(日)を「地球温暖化防止一斉行動週間」として、県が実施する「県下一斉ノーマイカー通勤ウィーク」にあわせて取り組んでいます。

取組内容は、期間のうち1回以上、参加事業所の従業員各人が以下の行動のいずれか又はすべてに取り組みます。

ノーマイカー ライトダウン 待機電力の削減 グリーンコンシューマー活動



「レジ袋もらわずいつもマイバック」
【いいた環境カルタより】

多くの皆様にご参加いただき、一斉行動の実が上がりますよう、ご協力をお願いいたします。報告は9月30日(木)までに「e-mail」または「fax」で事務局までお願いします。

[ご意見・お問い合わせ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井 裕司 (飯田市役所)
ic1482@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspyher/kankyo/iso/index.html>

10.11.29

電気自動車 貸し出し事業始まる

市民の移動手段が大きくマイカーに依存している飯田市において、環境モデル都市行動計画では、低炭素な移動手段の取り組みの一つとして電気自動車の普及啓発を掲げています。そこで、この計画に基づき電気自動車2台を導入し、うち1台を地域ぐるみ環境 ISO 研究会加入事業所に貸し出すこととなりました。



11月8日、貸し出し事業所第1号としてシチズン平和時計(株)に貸し出しを行いました。納車式で同社の川口社長は、「希望者を募集したい。できるだけ多くの従業員に体験してもらい電気自動車のよさを感じてほしい。次のステップとしては社有車のハイブリッドへの入れ替えを計画している。電気自動車化も検討していく」と述べました。また、「当社では早くから『エコドライブ』という電池が要らない光発電の時計の開発生産に力を入れており、生産量が全体の80%を超える。地球にやさしいものづくりをめざし、工場周辺の外灯のLED化も計画している。飯田市と一緒に活動を外にアピールし活力のある取り組みとなるようさらに改善していきたい」と環境活動への積極的な取り組みについても話されました。



同社への貸し出しは、来年1月末まで、2月以降は希望する事業所に2カ月ごとに貸し出しを行っていきます。この事業を通じて、普及促進への課題を抽出します。



グリーンコンシューマー 連続講座(初回)を開催

「グリーンコンシューマー活動」は、地球の温暖化等様々な環境問題に対処するため、「環境に配慮した商品を選び、購入する力」を住民が行使できるようにする行動で、身近な日常の買い物を通じて学ぶことができるため、理解しやすく多大な効果が期待できます。さらに、これらの学びは事業者とも無縁ではなく、企業の社会的責任としても、この活動を学び自ら行動に活かすことが、持続可能な地域社会の構築へ繋がります。

そこで、今回初めての取り組みとして、地域ぐるみ環境 ISO 研究会を対象にグリーンコンシューマー連続講座が開催されました。



第1回目は、講師にグリーンクラブい~だ代表や飯田地球温暖化対策地域協議会会長を務める今村良子さんをお迎えし、約20名の参加者により市役所で行われました。「グリーンコンシューマーとは何か」から始まり「グリーンコンシューマー10原則」まで、この行動が社会を変えることを学びました。

グリーンコンシューマー講座 ~2回目は実践講座~

11月4日、グリーンコンシューマー連続講座の2回目が行われました。1回目に引き続き今村良子さんに講師をお願いし、今回はキラヤ黒田店のご協力により現場にて実践講座が開催されました。

参加者自らが店内を駆け巡り、調査票を片手にグリーンコンシューマーのチェックを行いました。その後、商品を見ながら環境にやさしい買い物について、今村さんから助言をいただきました。



「グリーンコンシューマーの行動は、家計も助けます。是非家庭でお話いただき、家族の皆さんで実践してください。」(今村さん)誰でもできる身近な行動を地域ぐるみで実践しましょう。

【ご意見・お問い合わせ・配信解除】
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井 裕司 (飯田市役所)
ic1482@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidasypher/kankyo/iso/index.html>

10.12.28

事業所見学会 & 実務者会開催

地域ぐるみ環境 ISO 研究会メンバーによる事業所見学会と実務者会が12月3日に開催されました。

事業所見学会では、旭松食品(株)を見学させていただきました。冒頭に工場長さんを始め担当者の方から環境活動の歩み、取組内容、特に環境への配慮として排水処理施設の騒音、飛水、臭気の防止対策や汚泥の減量化、汚泥やおからの有効活用について説明していただき、実際に排水処理施設の現場を見学させていただきました。



事業所見学会終了後、実務者会が開催され、会議に先立ち CO2 バンク推進機構省エネアドバイザーの笹尾章治さんから「温暖化防止のための ECO して得する楽しい省エネ術の提案」と題して講演をいただきました。「家電製品の省エネ方法の実践と省エネ家電製品を購入して使用することで、CO2 を減らすだけでなく出費も減らし家計を助けます」の言葉のとおりエネルギーを賢く使うことを心掛けたいものです。



「南信州いいむす 21」 登録証交付式行われる

12月16日に「南信州いいむす21」の登録証交付式が行われました。今回の登録は、多摩川テクノクリエイション(株)が中級、(有)宮口屋が初級を新規取得しました。



多摩川テクノクリエイション(株)は、制御用モータ・自動制御装置・航空機の空間安定化装置などの設計・解析と計測器の校正を行う会社で、会社の業務が環境に与える影響を十分把握し、廃棄物の低減・リサイクルの推進・環境負荷低減商品の設計・試作等に努め、会社周辺の環境美化活動にも積極的に取り組んでいます。

(有)宮口屋は、飯田市の委託による一般廃棄物収集運搬業務及び産業廃棄物の収集運搬業務を行う会社で、廃棄物の収集運搬で使用する車両は、毎日の運転状況や燃料の使用などデータをとって適正な管理に努めるとともに、地域の環境美化活動にも積極的に協力しています。

多摩川テクノクリエイション(株)の熊谷社長は、「やっとスタートラインに立ったところで、設計技術の企業として省エネやリサイクル、またはエネルギーを使わないものづくりなどあらゆる活動に環境意識を生かしたい。できることは無限にあるはずなので一つ一つ積み上げていく」と語り、宮口屋の犬飼社長も「中級、上級へのステップアップを目指す」と抱負を述べられました。

南信州エコドライブ 1000人プロジェクト実施中

エコドライブは、「京都議定書」に定められた温室効果ガス排出量削減の達成を目指し、警察庁・経済産業省・国土交通省・環境省4省庁により推進されています。

飯田地球温暖化対策地域協議会では、この南信州エコドライブ・1000人プロジェクトで、地域の皆さんを対象としたエコドライブ講習会を実施しています。

1000人の方までは無料で講習を受けることができ、講習内容は、2~3名が1組となりインストラクターの指導の下、路上にて事前走行・座学講座・事後走行・座学講座・走行データレビューを行い、概ね3時間の講習により受講者には修了後に修了証が交付されます。

まだ申込みに余裕がありますので、是非受講していただき、成果を生かしエコドライブが推進されることを期待します。



【お申し込み・問い合わせ先】
ドライビングスクールアジマ
0120-17-1559まで

[ご意見・お問い合せ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井 裕司 (飯田市役所)
ic1482@city.iida.nagano.jp

本年も大変お世話になりました。
来年もよろしくお祈りいたします。



ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspyher/kankyo/iso/index.html>

謹賀新年

11.1.25

環境に配慮した「小さな世界都市」を目指して!! -シンポジウムを開催します-

飯田市が「ISO14001 自己適合宣言」を行った日が 2003 年 1 月 23 日。また、環境モデル都市に認定された日が 6 年後の 2009 年 1 月 23 日です。これを記念しまして、毎年 1 月 23 日頃にイベントを開催していますが、今年は 2 月 3 日に「小さな世界都市に向けた環境の取り組み」をテーマに、環境先進国ドイツの事例を通じて改めて環境の大切さ、持続可能な地域社会の創造について考えるシンポジウムを開催します。

今回は、筑波大学とミュンヘン大学のフランツ・ヴァルデンベルガー教授が「ドイツに学ぶ環境と経済を循環させる政策について」と題してドイツの環境政策に係る事例を中心に基調講演を行い、これを受けて(株)日本政策投資銀行の竹ヶ原啓介室長がコーディネーターとなり、ヴァルデンベルガー教授と牧野市長をパネリストに迎えパネルディスカッションを行います。

シンポジウムを通じて環境モデル都市として持続可能な地域をつくるためのヒントが見つかるはず。なお、入場料は無料で、参加希望者はどなたでも参加できます。

日時:平成 23 年 2 月 3 日(木)

18 時 ~ 19 時 40 分

場所:市役所 3 階 301 ~ 303 号会議室



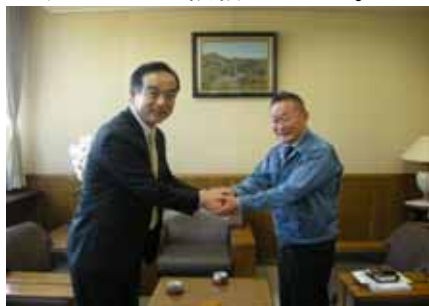
【ヴァルデンベルガー教授】



【竹ヶ原室長】

省エネモデル企業に ㈱アイパックス

地域ぐるみ環境 ISO 研究会が設置した温室効果ガス削減プロジェクト「いいこそいいだプロジェクトチーム」(責任者:長谷部和宣オムロン飯田(株)代表取締役社長)は、1 月 21 日、(株)アイパックス(羽場健治代表取締役社長)に省エネモデル企業として取り組むことを依頼しました。



【長谷部社長と羽場社長】

プロジェクトでは、見える化・運用改善・設備更新・機能追加と段階的に省エネの取り組みを進めていく方針の下、第 1 段階としてプロジェクト参加企業の中で省エネ活動を実践し、研究会参加企業、市民へと省エネ活動を展開していくためのモデルケースを作るため、事業所規模が適当で電気を主要なエネルギー源としている(株)アイパックスを選定しました。

羽場社長は、「効率経営が環境経営になるので是非やってみたい。10%の電力削減を目指したい。山本財産区と森の里親制度における資金援助に充てられる」と述べられました。

省エネに取り組むことで削減した電気料金がそのまま純利益につながるため、これからの企業経営のモデルとして期待されます。今後の企業経営は、事業成長と CO2 削減の両立が求められるのです。

循環型まちづくりを目指して~ごみの現況報告~

飯田市では、家庭から排出される 1 年間のごみの総収集量とリサイクル率について、平成 21 年度の目標をそれぞれ 25,120t、35%と設定し、市民の皆様と協働して、ごみの減量化を推進してきました。その結果、平成 21 年度のごみの総収集量は 22,360t、リサイクル率は 35.1%と共に目標を達成しました。

ごみ分別収集の総量は、平成 16 年度をピークに減少し、特に燃えるごみは、13,351 t から平成 21 年度 12,159 t と 1,192 t 減少しました。

平成 22 年度は、引き続きごみ減量化を目指して、燃やすごみと埋立ごみの組成調査を平成 22 年 6 月 3 日から 7 月 23 日に市内 20 地区のまちづくり委員会の皆様のご協力により取り組みました。埋立ごみの中には、前年度と比較して、埋立ごみ以外の混入が 3.9%減少し改善されましたが、再利用可能なごみが 32.4%も混入していました。



なお、ごみ処理経費は近年、緩やかに上昇していますが、20 年度の総額は 8 億 6617 万円と 2 年連続減少しています。今後もごみの発生抑制に取り組みましょう。

【ご意見・お問い合わせ・配信解除】
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井 裕司 (飯田市役所)
ic1482@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidasypher/kankyo/iso/index.html>

2011.2.17

環境に配慮した「小さな世界都市」を目指して!! -シンポジウム開催される-

「ドイツでは、交通分野でいえばGPSとインターネットを利用した自転車レンタル、カーシェアリング、パーク&ライドの取り組み、また、週末一つの切符でどんな距離でも同一料金となるバイエルンきっぷ。消費分野でいえば、地元の商品を地元で買う地産地消によって地域経済サポートが定着してきている。」

2月3日、市役所3階会議室において「ISO14001自己適合宣言」と「環境モデル都市認定」を記念したシンポジウムを開催し、筑波大学とミュンヘン大学のフランク・ヴァルデンベルガー教授が「ドイツに学ぶ環境と経済を循環させる政策について」と題してドイツの環境政策に係る事例を中心に基調講演を行いました。



環境と経済を循環させる政策の成功条件として「環境の現状を詳細に把握・比較し、必要となる専門領域の最新ノウハウを入手するため、中立的で独立した外部専門家を利用することも重要。日本でもそういうインフラが必要。」と強調しました。

基調講演を受けて、(株)日本政策投資銀行の竹ヶ原啓介室長がコーディネーターとなりパネルディスカッションを行いました。

竹ヶ原室長の「環境対策を考えた時、市民、事業者をどうやって巻き込むのか」との質問に、ヴァルデンベルガー教授は、「リーダーのイニシアティブと経験のある外部専門家の利用が必要」と発言し、牧野市長は「飯田市では、環境ビジネスの会社や地域ぐるみ環境 ISO 研究会の取り組みがまさにドイツと同じ取り組みとして地域内で起こっているが、日本の他の地域に広がっているかは疑問。今後どのように広げていくかが課題」と語った。

シンポジウムを通じて、環境に配慮した低炭素な「小さな世界都市」をどのように作っていくか学びました。

メガソーラーいいだ稼働開始しました

1月28日に、飯田市と中部電力(株)が川路地区において共同で建設を進めてきた大規模太陽光発電所「メガソーラーいいだ」が運転を開始しました。3月には、用地の一角に市の自然エネルギーPR施設も設置し供用開始する予定です。この施設は、環境モデル都市である飯田市が、自然エネルギーの利用を推進するためのシンボルとなる施設であり、中部電力(株)にとっても初めての事業用の太陽光発電所です。

18,000m²の市有地に設置された太陽電池パネルは4704枚。出力は1,000キロワット(1メガワット)、想定年間発電量は100万キロワット時(一般家庭300世帯分の年間使用電力に相当)で、発電された電気は川路地区と三穂地区に供給され、安定した電源として地域の暮らしを支えます。さらに、施設の運転によって削減されるCO₂の量は年間約400トンとなる見込みで、市民の電力利用

のグリーン化に大きく貢献することとなります。



電気自動車貸出事業 ~夏目光学(株)へ~

昨年11月から始まった電気自動車貸出事業ですが、2月から夏目光学(株)で利用することとなりました。ちなみに1月末までご利用いただきましたシチズン平和時計(株)では、走行距離1,973kmと通勤と業務用にフル活用していただきました。「加速がスムーズで、静かで力がある」「通勤に使うのなら十分な性能だった」という良い意見や「エアコンの効きが悪い」「バッテリーの減りが早い」という悪い意見もいただきました。2月から利用中の夏目光学(株)でも通勤に積極的に利用されているようです。



まだまだ課題はありますが、低炭素な移動手段への転換の取り組みの一つとして、電気自動車の普及啓発を行っていきます。

[ご意見・お問い合わせ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井 裕司 (飯田市役所)
ic1482@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/iso/index.html>

2011.4.5

『省エネ活動取り組み宣言』を採択 -事業所代表者会開催される-

東日本大震災が飯田下伊那地域の産業経済にも深刻な影響を与える中、3月28日、飯田市役所保健センターにて、地域ぐるみ環境 ISO 研究会事業所代表者全体会が開催されました。



中部電力飯田営業所の園原所長より「東京電力は火力5ヶ所700万キロワット、原子力910万キロワットの計1600万キロワットの発電被害を受けた。今後、電力需要の高まる夏場のピークに必要な6000万キロワットの4分の1が被害を受け電力不足の深刻化が予想されるため、計画停電をお願いしている。中電には夏場のピーク時に必要な3000万キロワットに対し、その1割の300万キロワットの予備があり、発電能力としては計画停電をしなくても確保できる。天然ガスによる発電も急遽立ち上げたが、何らかの制限、節約をお願いする事態が来るかも知れない」と説明があり、続いて、オムロン飯田の長谷部社長、三菱電機中津川製作所飯田工場の白金工場長、多摩川精機の萩本社長から深刻な状況報告がありました。

これを受け、研究会として『省エネルギー活動取り組み宣言』を採択し、無駄な電力やエネルギー

を使わず、その分を東北・関東地区へ送ることが被災地域への支援、早期回復の手立てになるとし、研究会参加事業所は創意工夫をもって最大限の省エネ活動に取り組む決意をしました。

省エネルギー活動取り組み宣言

2011年3月11日、東北地方太平洋沖を襲ったマグニチュード9の記録的な大地震、それに続く大規模な津波、福島第一原発の損傷と放射性物質漏洩等により、死者・行方不明者2万7000人、避難者25万人、20兆円を超えるような未曾有の被害を被っています。被災地では、多くの人達が厳しい避難生活を送り、事業所の活動は停滞し、その影響は日本全国に及んでいます。1000年に一度と言われる大規模な被害に対して、日本国内を始め、全世界から救援の手が差しのべられており、徐々に復興の兆しが見え始めています。しかし、エネルギー不足は深刻であり、電力の計画停電などで急場をしのいでいるものの、この危機を打開する為、無駄な電力やエネルギーを使わず、その分を東北・関東地区に送ることが、被災地域に暮らす人々の生活や、余儀なくその活動を停止せざるを得なかった事業所への支援となり、早期回復の手立てとなります。

参加事業所は、被災した人々や事業所を支援し、この日本に再び活力ある社会を取り戻すため、創意工夫をもって最大限の省エネルギー活動に取り組むことを、ここに宣言します。

2011年3月28日

地域ぐるみ環境 ISO 研究会

環境首都コンテスト 僅差の2位 -3つの条件はクリア-

第10回「日本の環境首都コンテスト」の結果が発表されました。総合点では、前回は100点以上上回る822点を獲得しましたが、水俣市に僅か5点及ばず第2位でした。しかし、総合順位以外の他の条件は、すべてクリアしておりますので、「環境首都」に匹敵する評価をいただきました。

質問分野別に見ると、「環境マ

ネジメントシステム」が得点率95.6%(前回86.7%)で第1位、「自治体との交流」が得点率95.0%(前回85.0%)、「住民のエンパワーメントとパートナーシップ」が得点率94.1%(前回77.6%)で第1位、「交通政策」が得点率94.1%(前回84.7%)で第1位と、4項目で得点率が90%を超え、水俣市の3項目を上回りました。他にも、「自然環境の保全と回復」、「風土を活かした風景づくり」、「エネルギー政策」分野においても第1位を獲得しました。

今回のコンテストにおいては、環境マネジメントシステム、自治体交流、交通政策などの強みをさらに伸ばすこと、得点の低かった環境学習などの課題を克服することで「環境首都」を目指してきましたが、まさにその成果が表れたものと言えるでしょう。

この環境首都コンテストは、環境という視点から、いわゆる健康診断として、第三者にこの地域を評価していただくものであり、この結果を受けて、当市の環境を視点とした政策をさらに充実させていかなくてはなりません。

最後に、初の「環境首都」となった水俣市に対し、心からお祝いを申し上げますとともに、この取り組みにご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

<総合順位(上位10位)>

1位	水俣市	827点
2位	飯田市	822点
3位	安城市	687点
4位	岡崎市	592点
5位	尼崎市	557点
6位	新城市	555点
7位	熊本市	546点
8位	掛川市	533点
9位	宇部市	521点
10位	板橋区	514点

[ご意見・お問い合わせ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之(多摩川精機)
桜井 裕司(飯田市役所)
ic1482@city.iida.nagano.jp

ぐるみ通信



<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/iso/index.html>

7月5日から飯田市役所環境 ISO14001 相互内部監査の参加者募集を開始します(日程は以下の URL を参照)

<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/manage/index.html>

ISO14001 トップインタビューを開催しました

去る6月2日に、飯田市役所で ISO14001 トップインタビューを開催しました。

市職員の他に、地域ぐるみ環境 ISO 研究会に加入する皆さん等約 130 名の参加者がありました。インタビュアーに、法政大学社会学部教授田中充氏をお迎えし、環境に対する市長の考え方や思い、飯田市の環境施策や EMS の課題を明確にすることを目的に、牧野市長に対しインタビューを行いました。



牧野市長より、「これまでは環境について、ごみやエネルギーの視点からの見方が強かったが、今後は、それぞれの政策に安心安全の視点も考慮に入れ、ハード面だけではなく、ソフト面で見えないところでの対策を地道に積み重ねながら災害に強いまちづくりを考えていく必要がある。また、極端な気候変動による自然災害が起こりうることを視野に入れながら、例えば飲料水の確保についても、本当に大丈夫か、それぞれが当たり前のことを、今一度点検し直すことが必要」との発言がありました。

また、第 10 回「日本の環境首都コンテスト」において、「明日の環境首都賞」を飯田市が受賞したことを踏まえて、牧野市長より、「今回の受賞は、これまでの地域ぐるみでの取り組みが評価されたが、地域と協働してこの賞を得たことを改めて認識するとともに

に『明日の環境首都』の名に恥じないよう、広域的なモデルになるような施策の展開が重要」とのコメントがありました。

このトップインタビューを受けて、7月中旬から実施する飯田市役所環境 ISO 相互内部監査における重点監査事項が導き出されることとなります。

「日本の環境首都コンテスト」表彰式 & 意見交換会が開催されました

第 10 回「日本の環境首都コンテスト」表彰式及び意見交換会が6月6日に市役所で開催されました。今回当市は、環境首都に匹敵するとの評価を得て「明日の環境首都賞」を始め、全部で 18 の表彰を受けました。



意見交換会には、牧野光朗飯田市長、萩本範文多摩川精機(株)代表取締役社長、原亮弘おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役社長、今村良子飯田地球温暖化対策地域協議会会長、杵本育生 NPO 法人環境市民代表理事、原育美 NPO 法人環境ネットワークくまもと副代表理事の6名がエネルギーの自立や持続可能な地域づくりなどについて意見を述べました。

牧野市長より、「一番必要なのは覚悟とビジョン。何を我慢し、何を守るのか。中長期ビジョンを持ってエネルギー政策をどうするか議論が必要。また、今回の受賞についても、更に高みを目指していくことがトップクラスとしての責務。それによって裾野が広がってくる。そのなかで地域に根ざした人材育成と教育が必要」との発言がありました。

「市民監査員委嘱式」と「飯田市役所環境 ISO 内部監査員研修」を行いました



ISO14001 自己適合宣言を行っている飯田市役所の内部監査において、近年外部監査員が減少していることから内部監査の充実が課題となっていました。そこで、今年度より地域ぐるみ環境 ISO 研究会加入事業所の皆さん 19 名を「市民監査員」として委嘱し、今後の市役所における内部監査をお願いすることとなりました。



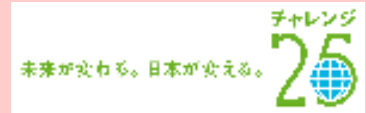
また、6月22、23日に飯田市役所にて市役所の内部監査員を対象とした内部監査員研修を行いました。(株)日本環境マネジメント研究所主席コンサルタントの中村孝一先生を講師にお招きし 60 名が受講。市民監査員も 6 名が参加しました。研修では、実施内容の「有効性」の評価の必要性などについても学び、有意義な研修となりました。

【ご意見・お問い合わせ・配信解除】
 地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
 沢柳 俊之 (多摩川精機)
 桜井、増田 (飯田市役所)
 ic1482@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信

<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/iso/index.html>



2011.7.29

飯田市役所相互内部監査 参加者を募集しています

7月15日(金)から飯田市役所環境マネジメントシステムの相互内部監査が始まりました。

自己適合宣言を行っている飯田市にとって、この内部監査は、規格との適合性、システムの有効性を確認する機会でもあり、客観性、透明性を担保する機会でもあるため、非常に重要な位置づけとなります。是非ともご参加くださいますようお願いいたします。



相互内部監査の申込方法

参加条件は以下のとおりです。「監査」に参加いただくためには、①環境マネジメント審査員の有資格者②内部監査員養成コースの修了者③内部監査員として2年以上の経験者のいずれかの条件を満たしていること。これらの条件に該当していなくても、「オブザーバ」としての参加が可能です。

参加希望者は、下記の内容を記し、メールでお申し込みください。

sakugen_co2@city.iida.lg.jp

①お名前②勤務先など③電話番号、メールアドレス④資格・経験⑤監査を希望する課等(複数可)⑥「監査」、「オブザーバ」の別

*監査の日程及び重点監査事項等は下記のHPで公開しています。なお、日程が変更になる場合がありますので、念のため直前にHPをご確認のうえお越してください。

<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/manage/index.html>

南信州いいむす21 訪問支援実施中

南信州いいむす21のグレードアップの一環として、取り組み事業所の訪問支援を行っています。研究会参加事業所の実務者が、15のチームに分かれて南信州いいむす21登録の45事業所(初級・中級・上級が対象で、直近に更新審査実施済み事業所を除く)を訪問し、各事業所のフォローを行っています。

今回の訪問は、審査ではなくあくまで支援ですから、事業所の相談に答え、良い点を評価し、改善点を提案しています。

南信州いいむす21に取り組む事業所の皆さんは、ステップアップの機会として、訪問支援を有効にご活用ください。

ごみの分別 組成調査に参加して

市役所環境課では、現在、ごみの組成調査(ごみの分別状況)を各地区の衛生担当の皆さんと一緒に調査を行っています。地球温暖化対策課の職員も協力して実施しています。



飯田市千代の飯田市最終処分場(グリーンバレー千代)と桐林クリーンセンター(焼却場)で埋め立てごみ、燃えるごみについて実際に家庭から出されたごみを抽出して分別し直します。

残念と驚きは、埋め立てごみ 32

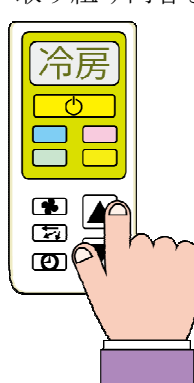
袋の中から、容器包装プラスチックに分別すべき、きれいな容器包装プラや、少し洗えば容器包装プラに入れられるもの、土曜日のリサイクルステーションに出さなくてはいけない食品の空き瓶類が非常に多く混じっていたことです。写真の3種類に分けたピンは、飯田市ではすべて本来リサイクルステーションに出すべきものです。

最終処分場も限られた資産であり、この施設が一年でも二年でも長く使うためには、私たち一人一人が正しく分別することが原点であると改めて認識しました。

一斉行動週間の 取り組みについて

中部電力浜岡原子力発電所の停止に伴い、飯田下伊那地域の各事業所もピークカットを始めとする節電の取り組みが始まりました。

地域ぐるみ環境 ISO 研究会においても、これまでよりも踏み込んだ取り組みを実施するため、従来の取り組みに加え、更に細かな取り組み内容を列挙し、事業所に



における空調、パソコン、照明、その他、様々な設備について、例えば、全体照明を使わず電気スタンドを利用するなど、各事業所で取り組む内容を決め、8月に実施するものです。取り組み

内容の詳細については以下のHPをご確認ください。

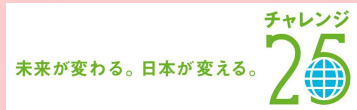
<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/iso/index.html>

[ご意見・お問い合わせ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之(多摩川精機)
桜井、増田(飯田市役所)
ic2568@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信

<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/iso/index.html>



2011.11.4

飯田市役所相互内部監査 ご協力ありがとうございました

7月15日から8月30日まで飯田市役所環境マネジメントシステムの相互内部監査が行われました。



今年も内部監査員またはオブザーバーとして遠くからお越しいただきまして、本当にありがとうございました。また、今年度より、地域ぐるみ環境 ISO 研究会加入事業所実務者の中から19名の皆様を市民監査員として委嘱し、内部監査にご協力をいただきました。皆様から貴重なご指摘を賜り、誠にありがとうございました。今後の改善に生かしていきます。

今年度お越しいただけなかった皆様も、来年度は是非、飯田市役所の相互内部監査にお越しください。

8月の省エネ一斉行動の結果が出ました

8月中に飯田下伊那の各事業所において実施していただきました節電に関する「事業所における省エネ一斉行動週間」の実施結果についてご報告します。実施のご協力ありがとうございました。

<参加状況>

取組事業所数	45
取組事業所全従業員数	5,124
取組事業所参加従業員数	3,595
従業員の取組参加率	70.2%

<取組結果>

各事業所において、空調設備について設定温度を1~2℃上げたり、フィルターの清掃や間引き運

転、照明の間引きやLED化、パソコンのディスプレイ輝度を下げたり、離席時の節電の実施、電気式給湯器の電源OFFなど、これまで取り組んでこなかった事項について今回一斉行動で取り組んだ結果、節電の取組実施率が7%アップしました。



緑のカーテン (ゴーヤ)

各事業所の省エネ活動報告 ~事業所代表者会開催される~

10月26日(水)、飯田市役所保健センターにて、地域ぐるみ環境 ISO 研究会事業所代表者全体会が開催されました。

会議では、冒頭、萩本代表より、3月の大震災以後の台風災害やタイの水害等の自然災害の発生に触れ、「きわめて憂慮すべき事態であり、地球環境の改善の一助となるようこの会の活動を行っていくとともに、半年の節電の取組及びいいこすの取組を今後の共通テーマにして冬にあっても協力できるようにしていきたい」と挨拶がありました。

研究会の活動報告では、まず、いいこすいいだプロジェクトのメンバーから温室効果ガス削減の取組について報告がありました。「いいこす」とは「いい」(エネルギーの「E」と「こす」(CO2削減)を合わせたもので、研究会加入事業所の中から7事業所がメンバーとなり昨年9月から始まったプロジェクトです。飯田市山本の㈱アイパックを省エネモデル企業に選定し、長野県環境保全協会の省エネアドバイザー北勉様から指導を受けながら取組をはじめました。まずは、無駄な電力消費について、運用方法を見直すこととなるべくお金を掛け

ずに省エネを実施するために、プロジェクト参加事業所の省エネチェックシートによる現状把握や、コンプレッサのエア漏れ調査などを実施した様子などについて紹介がありました。

次に、各事業所から省エネ取組の報告があり、シチズン平和時計では、4~9月までの各月の電力消費量削減目標3%に対し、△8.5%削減。また、7~9月のピーク時の電力平均削減率は、目標の15%に対し17.5%の削減を達成したとの報告がありました。旭松食品㈱では、平成19年からの省エネ推進委員会の取組について紹介があり、今年度、ボイラの燃料をA重油からLPGに切り替える工事に着手し、CO2排出量が20%削減される見込みとの報告がありました。多摩川精機㈱では、84台の自販機のうち半数を削減したり、その他節電対策を実施した結果、4~9月の間の電気使用量が、昨年同時期に比べ18.4%削減できたと報告がありました。飯田市役所においても、節電に取り組んだ結果7~9月の本庁の電力使用量が、前年対比7月14.5%、8月12.6%、9月15.5%削減できたとの報告がありました。



また、中部電力㈱飯田営業所より、今冬の電力需給について説明があり、原発の全号機停止に伴い、運転可能な発電機(供給力)が減り、火力発電所の稼働率が極めて高い状態となることから、冬場においても引き続き、各事業所に対し節電をお願いしたいと依頼がありました。研究会としても、飯田下伊那の事業所を対象に、今冬、省エネの一斉行動取組週間の実施を予定しています。ご協力をよろしく願いいたします。

[ご意見・お問い合わせ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井、増田 (飯田市役所)
ic2568@city.iida.nagano.jp

ぐるみ通信

<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspher/kankyo/iso/index.html>



2011.12.28

地域ぐるみ環境 ISO 研究会 実務者会開催される

去る11月22日に、飯田市役所保健センターにて、「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」実務者会を行いました。

今回は、「ISO50001」(エネルギーマネジメントシステム)について、SGS ジャパン(株)から講師を招いて研修を行いました。まだ、日本でも4社しか取得されていないという比較的新しい国際規格で、事業体として如何にエネルギー使用量を削減し、コストを削減するかということをテーマにしたマネジメントシステムです。ISO14001と同じような運用を行う仕組みで、事業所として削減目標を設定して実施するもので、台湾などの海外や日本で成功した導入事例などを交えた説明を受けました。

また、2001年から運用を開始し、今年で10年目を迎えた地域版環境マネジメントシステムである「南信州いいむす21」について、現状の問題点等について意見交換しました。その中で、取組事業所の担当者の交代や研究会実務者の交代に伴い、取組や審査、支援のやり方に温度差が出てきていることが指摘され、運営の面でも、今後の方向性について検討が必要との意見が出ました。今後、審査・支援について改善していくことが必要とのことから、実務者の「南信州いいむす21」について検討するための分科会(プロジェクト)を作って検討を進めていくことを確認しました。



秋の一斉行動 の結果について

9月末～10月にかけて飯田下伊那の各事業所において実施していただきました「秋のCO₂一斉行動週間」の実施結果についてご報告します。実施につきましてはご協力ありがとうございました。なお、ご報告が遅くなったことにつきましてお詫び申し上げます。

<参加状況>

取組事業所数	57社
取組事業所参加者数	8,529人

<取組み結果>

ノーマイカー参加者数	8,086人
ライトダウン参加者数	9,962人
グリーンコンシューマー活動者数	14,896人
Aイドリングストップ参加者数	10,462人
急発進・急加速・急減速をしない	25,978人
削減されたCO ₂ 量の推計値	24.9t

昨年9月に行った「地球温暖化防止一斉行動週間」に比べて、参加事業所数が、62から57事業所と減少してしまいました。しかし、取組参加者数は昨年の6,999人から8,529人に、ノーマイカー参加者数は、6,262人から8,086人と増加しました。

毎年、一斉行動で行っているノーマイカー通勤、エコドライブ、ライトダウン、レジ袋の削減などの取組は、飯田市における「環境モデル都市行動計画」のP66 http://www.ecomodel-iida.com/dl/c_board.cgi?cmd=one;no=2;id= においても、地域全体のCO₂削減の一つの手段として、実施することが明記されています。飯田下伊那地域の皆様の環境に対する意識向上につながるよう今後とも実施していく予定です。マンネリ化しないためにも、やり方等でご意見等がありましたら是非お寄せください。



「南信州いいむす21」 登録証交付式行われる

12月27日に「南信州いいむす21」更新事業所の登録証交付式が行われました。今回は7社が更新をされました。その中でも、エコピア飯田(株)桐林工場と綿藤トキワフーズ(株)の2社が中級から上級にステップアップされました。また、(株)アジマ自動車学校、井坪設備工業(有)、(株)ダイマル、ダイワ設備(株)、メガテン(有)が初級を更新されました。

南信州いいむす21は、環境面から業務を見直し、改善を図る良い機会になります。新規取得や、より上位の級にステップアップする事業所は少しずつではありますが増えてきています。

今後、研究会におけるバックアップ体制についても、地盤固めをしながら、将来に向けて発展できる制度となるよう改善が必要です。



<今年を振り返って>

今年は、3月11日の東日本大震災を始め、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の拡大、10月からのタイの大洪水、NY市場で1ドル75円台の戦後最高値を更新する円高など、私たちの仕事や生活に大きな影響を与えました。悪く考えるのではなく、これらの影響をむしろチャンスと捉えて対策をし、取り組んでいくことでまた道が開けてくるかもしれません。今回、夏の節電の取組を実施して、まだまだやる余地があるということを実感したのではないのでしょうか。

来年は更に向上していけるように改善をしていかなければと感じました。本年も大変お世話になりました。

[ご意見・お問い合わせ・配信解除]
地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局
沢柳 俊之 (多摩川精機)
桜井、増田 (飯田市役所)
ic2568@city.iida.nagano.jp